あなたのレポーター　The Aquaculture

育てる漁業

平成17年7月1日
NO.386

発行所／㈳北海道栽培漁業振興公社
発行人／杉森　隆
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
（北海道第二水産ビル４階）
TEL（011）271-7731／FAX（011）271-1606
ホームページ http://www.saibai.or.jp

日本海へ ニシン稚魚の旅立ち

厚田村古潭漁港沖で6月1日、約70㎜に成長したニシンの稚魚32万1千尾が日本海地域のトップを切って放流されました。

ニシンの稚魚は2月8日に厚田産親魚から採卵されたもので、5月10日と11日、羽幌センターから合計32万5千尾の配付を受け、古潭漁港内に設置された生け簀4基で中間育成されていました。収容時の平均全長は56.3㎜でした。

午後1時、集まった10数人の漁業者と指導所職員らの手で作業が行われました。1隻の船で2基ずつ生け簀ごと沖に牽引して稚魚を放流しました。

CONTENTS　目次

漁業士発アクアカルチャーロード …… 2
いぶり噴火湾漁協指導漁業士　岩田廣美さん
平成17年度通常総会 …… 3～7
事業実施計画
アクア母ちゃん☆いぶり噴火湾漁協虻田女性部長… 8
浜のお買い物☆石狩湾漁協 石狩朝市…… 8

迷ったときは初心に帰れ

いぶり噴火湾漁協指導漁業士
岩田　廣美さん

いぶり噴火湾漁協指導漁業士の岩田廣美さんが伊達で営んでいる主な漁業は、ホタテガイ養殖、ホタテガイ桁網、定置などです。

岩田さんは「漁業士なんて柄じゃない。人に教えるどころか、自分の事で精一杯、毎年一年生だ」と肩をすぼめます。この2年ほど、あまり良いホタテ稚貝がつくれず、試行錯誤の毎日だそうです。

「自分はプライドを持って、これなら間違いないと思って今までやってきたが、ここ2、3年はパッとしない。毎年毎年、海が変わる。海の条件が悪くなってきて貝がついていけなくなっている。これまでのやり方をどういう風に変えていくか、考えていかないとならない」

良い貝は良い稚貝から

養殖ホタテの水揚げ時期となる冬場の1、2月、伊達支所の前浜はシケ早く、海に出られる回数が他地区に比べて少なく、岩田さんの住む黄金地区は特にシケが多いといいます。

「大量につくっても揚げてこられない。伊達では大きい良い貝をつくって値段を取るようにしている」

耳吊りが始まる前には、養殖部会を開いて話し合います。

「小さなものは使わず、大きな稚貝を下げる。良い貝は稚貝の段階から決まる。吟味して稚貝をとって、早く入れ替えして少しでも大きくしないと良い貝はできない、とオレはそう思う」

だけど、良い物をつくっても現実は質より量、そういう世の中だ、と岩田さんは嘆きます。

量より質を目指して

「努力したら努力が報われるような価格形成にしてもらいたい。良い物をつくってもキロ数円も違わない。去年みたいに品物が無くなれば、貝であれば何でも高く売れる。努力してもしなくても一緒だ。だったら量さえつくれば何でも良いんだべとなる。だけど、オレたちはポリシーを持っていい貝をつくっている」

規模が大きくなり、機械化が進み、いつの間にか貝は品物になってしまいました。

「昔の人は、迷ったら初心に帰れと言ったが、その教えは正しいと思う。貝はもちろん生き物なんだけど、初めの頃はほんとに生き物を扱うように大事にしていた。これだけ大量になってしまったら、全部手作業ってわけにいかないが、ここは機械、ここは手作業って考えながら、初心に帰って、丁寧に扱うように心がけている。あとは吊るした貝が目減りしないで育つ事を祈るしかないな」

現在、道の「えりも以西海域栽培漁業拠点センター」の建設が伊達市で進められています。

えりも以西海域では、1991年からマツカワの人工種苗放流を行っています。センター完成後は、100万尾の放流体制となります。

「マツカワへの期待度は高い。全然いなかったマツカワが放流を始めてから2、3尾は定置に乗るようになった。たくさん放流すれば日本海のヒラメのように増えるんじゃないかな。ただ、それには遊漁船への規制をきちんとしていかないと増えるもんも増えない」

遊漁者にも協力を

伊達市には遊漁船組合がありますが、外から来る船の方が圧倒的に多く、荷揚げのじゃまをされるなどマナーも悪いといいます。

「今は漁師の数より遊漁者の方が多い。釣られる数も半端じゃない。放流稚魚は餌付けされているから簡単に釣られてしまう。小さな物は放してくれるよう徹底しないと効果は上がらない。遊漁者とどううまく共存していくか、その課題は今後ますます重要になってくると思うよ」

平成17年度　通常総会開催

本公社の平成17年度通常総会が6月24日、札幌の第二水産ビルで開催されました。

今井鐵男ウトロ漁協組合長を議長に、提出議案7項目（1.平成16年度事業報告及び収支決算について、2.平成17年度事業計画及び収支予算の設定について、3.平成17年度会費の賦課について、4.役員の報酬について、5.借入金の最高限度について、6.役員の退任慰労金について、7.役員の補欠選任について）が各々審議され、全議案とも満場一致で原案通り承認、可決されました。

なお、役員の補欠選任では、田島順逸利尻町長と谷川弘一郎浦河町長が選任されました。

杉森隆会長あいさつ

平成17年度通常総会の開催にあたり、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。

皆様方には、昨日の全道漁協組合長会議をはじめとして、系統及び関係団体の総会に引き続きご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、道水産林務部からは、小島参事のご臨席をいただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨日の全道漁協組合長会議では、ＷＴＯ・ＦＴＯ等水産物輸入対策の特別決議をはじめ、漁業経営安定対策、資源増大・資源管理対策の抜本的強化等が決議され、依然として、本道の水産業が厳しい現状に立たされていることを痛感しますとともに、全道の漁協と沿海市町村を会員とします公社の果すべき役割とその責務をしっかりと受けとめ、栽培漁業の推進と漁場環境の保全に向けて、より一層の努力をしていかなければならないと、肝に銘じたところであります。

本日の総会でご審議をいただきます内容については、後ほど説明をいたさせますが、私から、平成16年度の事業結果と17年度の事業計画の概要について申し上げます。

まず、平成16年度の事業結果でありますが、ヒラメなどの種苗生産事業や指導事業などは、概ね順調に終了するとともに、調査設計事業の受注額が当初計画の6億9千万円を大幅に上回る8億円となったことから、当初予算の1千6百万円の赤字から3千3百万円の黒字決算となりました。これも、浜の皆様のご支援と職員一同の努力の賜物と感謝しているところであります。

次に、平成17年度の事業計画と収支予算でありますが、現在までの事業の実施状況について申し上げますと、ニシンの種苗生産につきましては、計画の180万尾を大幅に上回る230万尾を生産し、各地の中間育成施設への配付を終え、また、ヒラメ、クロソイの種苗生産につきましては、仔魚の飼育段階に入り、アワビ、ウニにつきましても、当初計画に沿って順調に飼育を進めております。

次に、収支予算でありますが、栽培漁業基金の運用については、北海道銀行優先株の7億4千万円の増額と有価証券15億円の購入を進め、今年度の運用益は約9千万円が見込まれます。また、会計別の収支を見ますと、前年度に引き続き、一般会計のほか、アワビ、ウニ会計も赤字経営を強いられており、残念ながら公社全体で約3百万円の赤字予算となっていますが、調査設計事業の受注の拡大や経費の節減をさらに図って、対処してまいる所存でありますので、会員皆様の一層のご理解とご協力を賜りたいと考えております。

なお、道水産林務部は、昨年から、エリモ以西海域のマツカワの種苗生産を担う拠点センターの建設に着手し、今年度完成となりますことから、公社としても、すでに担当職員を配置し、その準備を進めておりますことを、ご報告します。

本日の議案は、「平成16年度事業報告及び収支決算」など7件でありますが、十分なご審議を賜りますことをお願い申し上げますとともに、ご出席の皆様方のご健勝と大漁をご祈念いたしまして、平成17年度の通常総会のご挨拶といたします。

事業実施計画

(社)北海道栽培漁業振興公社の平成17年度事業計画が通常総会で承認されましたので、その内容を紙面上で紹介します。

1　栽培漁業指導事業

（1）研修指導事業

栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業に関する知識、技術の普及と指導を目的とした研修会を、水産技術普及指導所の支援を得て、道内各地において開催するとともに、会員等が行う研修事業の実施に協力します。

また、本道における栽培漁業に関する今日的問題について、全道の関係者を対象に「育てる漁業研究会」を札幌市において開催します。

研　修　事　業　計　画

	実　施　時　期	開催地
「漁業生産技術研修会」	平成17年９月	奥尻町
「育てる漁業研究会」	平成18年１月20日	札幌市

（2）広 報 事 業

ア　機関紙「育てる漁業」の発行

栽培漁業に係る事業、試験研究、施設及び資料等の紹介、解説等を掲載した機関紙「育てる漁業」を、毎月発行、配布します。

イ　北海道沿岸漁場海況速報事業

栽培漁業推進上の基礎資料とするため、道内の沿岸漁場47か所において毎日観測した水温を、旬ごとにまとめるとともに、過去10年の同旬平均水温を併記して速報するほか、年間の水温、気象をまとめて刊行、配付します。

この全道を網羅した日々の観測データは、道内唯一のもので、広く有効に活用されているため、観測従事者の協力を得て今後も継続します。

また、本年度は本事業を開始して35年に当たるため、沿岸漁場海況速報35周年記念事業を実施します。

ウ　種苗生産事業報告書の発行

公社が行っているヒラメ、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビの種苗生産について、平成16年度事業の経過及び実績をとりまとめて発行、情報交換文献として全国の関係機関に配付します。

（3）漁業技術研究支援事業

漁村青少年グループ等が行う、栽培漁業に関する研究実践活動のうち、その実効が期待されるものに対し、所要経費の一部（１件50万円以内、実施期間

３か年以内）を助成するとともに必要に応じ技術的な協力も行います。

また、地域の漁業振興に係わる取り組みのより一層の活性化を図るため、栽培漁業の推進に関連する新しい取り組みに対しても支援します。

漁業技術研究支援事業計画

研　究　課　題	事業実施団体名
マツカワブランド化推進事業	えりも以西栽培漁業振興推進協議会
人工リーフを利用したウニ人工種苗放流試験事業	苫小牧漁業協同組合青年部
カレイ種苗生産試験	紋別漁業協同組合青年部
ハタハタの種苗生産・中間育成試験事業	留萌中部ハタハタ研究会
資源管理型ナマコ潜水器漁業操業モデル構築試験	ひやま漁業協同組合江差潜水部会
シラウオ漁獲調査	大樹漁業協同組合青年部
ナマコ天然採苗試験	砂原漁業協同組合青年部
合　計　　７課題	７団体

（４）技術開発試験調査事業

マナマコ種苗生産の要望に対応し、関係機関の支援を得ながら着底稚仔の大量確保・育成の技術開発試験を行います。

２　日本海ニシン種苗生産委託事業

道は、日本海地域の漁業振興対策の一環としてニシン資源増大に力を入れることとし、平成８年度から13年度までの６か年を第一期、平成14年度から19年度までの６か年を第二期として事業を推進してきました。

本年度は、石狩管内、留萌管内の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、45㎜種苗を180万尾生産し、後志、石狩、留萌、宗谷管内の各地先から放流する計画です。

公社は、道から委託を受け、羽幌センターで45㎜種苗を180万尾生産し、うち150万尾を各地区協議会等に中間育成用として配付し、試験用として30万尾を60㎜サイズまで中間育成します。

３　栽培漁業推進事業

（１）ヒラメ種苗生産事業

餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の過程を経て、ヒラメ30㎜種苗296万尾を生産し、そのうち37万７千尾を３か所の民間中間育成施設へ配付します。

残りの258万３千尾は羽幌、瀬棚両センターにおいて放流サイズの80㎜まで中間育成し、３か所の民間施設と合わせて220万尾を放流します。

このほか、標識調査用として150㎜サイズの種苗４千尾を放流します。

（２）マツカワ種苗生産事業

平成18年度からの種苗生産事業に向けて、採卵用親魚を今年12月から育成管理するとともに、事業に係わる関係機関との連携・協力体制を整備します。

ヒラメ種苗生産計画

北海道栽培漁業羽幌センター

（110万尾放流体制）

〔30mm種苗〕	〔中間育成〕		〔放流80mm〕
羽幌センター 147万尾	羽幌センター	133万尾	－100万尾
	民間施設	14万尾	－10万尾
	〔羽　幌	14万尾	10万尾〕

北海道栽培漁業瀬棚センター

（110万尾放流体制）

〔30mm種苗〕	〔中間育成〕		〔放流80mm〕
瀬棚センター 149万尾	瀬棚センター	125.3万尾	－93万尾
	民間施設	23.7万尾	－17万尾
	〔寿　都	16　万尾	12万尾〕
	〔知　内	7.7万尾	5万尾〕

4　栽培漁業振興事業（種苗生産等支援助成事業）

地域の協議会等が実施する種苗生産、中間育成、放流等の事業に対して、振興基金運用益から助成を行います。

5　アワビ種苗生産事業

現在育成中の16年産種苗と17年に採苗する種苗の育成管理に当たり、16年産25㎜種苗19万７千個と30㎜種苗87万１千個の合計106万８千個及び17年産20㎜種苗43万個の総計149万８千個を供給します。

栽培漁業振興事業実施計画

（単位：千円）

事業主体	対象魚種	事業費	助成金額
寿都町漁業協同組合	クロソイ	2,936	1,463
島牧漁業協同組合	マゾイ クロソイ	4,146	2,072
ひやま漁業協同組合	クロソイ	4,915	2,457
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	クロソイ	5,020	2,510
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	クロソイ	7,380	3,690
噴火湾胆振海区漁業振興推進協議会	マツカワ	4,495	2,996
ひだか漁業協同組合	マツカワ ハタハタ クロソイ	6,356	3,541
三石町栽培漁業推進協議会	ハタハタ クロソイ マガレイ マツカワ エゾボラ	1,067	571
浦河漁業協同組合	マツカワ	600	400
様似町水産振興協議会	マツカワ ハタハタ エゾボラ	1,587	854
えりも町栽培漁業振興協議会	マツカワ ハタハタ クロソイ マガレイ エゾボラ	5,936	3,187
十勝管内栽培漁業推進協議会	マツカワ	1,530	1,000
大津漁業協同組合	クロソイ	1,414	707
釧路市漁業協同組合	マツカワ クロソイ	3,072	1,800
昆布森漁業協同組合	ニシン	778	389
厚岸漁業協同組合	ニシン	1,000	500
浜中漁業協同組合	ニシン	427	205
根室市	ハナサキガニ	3,979	1,989
根室海域ハナサキガニ資源維持増大対策連絡協議会	ハナサキガニ	441	220
根室管内ニシン種苗生産運営委員会	ニシン	28,013	7,000
根室管内栽培漁業推進協議会	マツカワ	1,655	1,103
羅臼漁業協同組合	マガレイ クロソイ	1,716	815
宗谷漁業協同組合	マナマコ ホッカイエビ	2,210	1,105
増毛町	ニシン クロソイ マナマコ	1,805	902
合計　24団体	10魚種	92,478	41,476

アワビ種苗本年度供給計画

（単位：千個）

殻長区分	20mm	25mm	30mm	計
16年産		197	871	1,068
17年産	430			430
計	430	197	871	1,498

6　ウニ種苗生産事業

エゾバフンウニは、現在育成中の平成16年産種苗及び平成17年に採苗する種苗の育成管理に当たり、16年産５㎜種苗262万個と10㎜種苗19万３千個の合計281万３千個、及び17年産５㎜種苗224万個の総計505万３千個を供給します。

また、キタムラサキウニ種苗については16年産５㎜種苗110万個を供給するとともに、平成18年に供給する123万５千個の採苗を行い育成管理します。

エゾバフンウニ付着期の幼生は300万粒を供給します。

また、アワビモ7,500枚を供給します。

エゾバフンウニ種苗本年度供給計画

（単位：千個）

殻径区分	5mm	10mm	計
16年産	2,620	193	2,813
17年産	2,240	0	2,240
計	4,860	193	5,053

7　調査設計事業

調査設計事業の実施方針

次の基本的な考え方を、公社の調査設計事業の実施方針とします。

1　公社は、全道の漁業協同組合と沿海市町村を会員としている公益法人団体であることから、その基本的なスタンスは、漁業者の視点に立って考えます。

2　受託事業については、精度の高い調査と公正な判断による高品質な報告書を作成するとともに、漁業環境の保全と漁業影響を防止するための考え方を提言します。

3　公社は、事業実施者と漁業者との間にあって、問題の解決に向けての調整と提言を行います。

平成17年度調査設計事業受託見込み

平成17年度の調査設計事業は、事業規模見込みを受託件数58件、受託金額660,000千円とします。

平成17年度　事業執行方針と重点目標

平成17年度の調査設計事業については、社会的、経済的条件から非常に厳しい状況になるものと考えられ、新たな考え方と執行体制の下に、充実した事業の展開を図っていくこととします。

1　管理室業務の拡充と執行体制について

・調査設計部の管理・運営に係わる全ての業務を総括管理し、調査設計部の管理・運営に係わる施策提言を行います。

・管理室は４人体制とし、業務の分担を明確にし、一体となって業務を執行する体制を確立します。

2　スタッフ制の導入について

・長期にわたって継続し、事業規模も大きく、公社にとって重要な業務については、スタッフ制を導入して、調査業務の効率的な実施と精度の向上をはかります。

8　クロソイ種苗生産事業

クロソイを対象とした栽培漁業を実施する会員からの要望により30㎜種苗を生産し、配付します。本年度は、30㎜種苗54万２千尾を生産し、要望先へ供給します。

クロソイ種苗の要望先一覧表

要望先	尾数
増毛町	10,000
寿都町漁業協同組合	92,000
島牧漁業協同組合	20,000
ひやま漁業協同組合	100,000
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	70,000
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	150,000
三石町栽培漁業推進協議会	5,000
大津漁業協同組合	10,000
釧路市漁業協同組合	15,000
東しゃこたん漁業協同組合クロソイ海中養殖部会	20,000
室蘭漁業協同組合	50,000
合計	542,000

アクア母ちゃん

いぶり噴火湾漁協虻田女性部長
内海　光子さん

女性部の手作り製品を

合併組合のいぶり噴火湾には五つの女性部があります。役員同士は顔を合わせる機会もありますが、女性部全員で交流してみましょうと、去年の2月と今年の3月に『マリンスクール』を開催しました。各部長と役員で120人分ほどのオードブルを作り、講演会の後にカラオケなどをして親睦を深めました。皆が顔見知りになるというのは、お互い頼み事もしやすくなりますし、物事を円滑に進めるには一番良い事だと思います。

虻田女性部の活動もいろいろあります。一年に一度、町民の皆さんを呼んでホタテ料理教室を開いていますが、これは特に続けていきたい活動の一つです。

去年から研修旅行用に『つもっと』のネーミングで一日100円の積み立て貯金をしています。来年、沖縄か京都へ行くつもりです。

しんれんのマリン塾で「人を楽しませ喜ばせる事が人集めのもと」と聞き、8年前からパークゴルフ大会を始めました。女性部が面白いよと宣伝したので、組合でも漁民運動会をパークゴルフ大会に切り替えました。

この春、地場産品センター「あぷた」がオープンしました。女性部では「ホタテの粕漬け」を製品化して出すつもりです。その準備のため去年、中央水試へ行って勉強してきました。今は粕が手に入らず、つくる事ができませんが、秋に粕が手に入り次第、作って出品する予定です。できれば、秋サケのフレークも作りたいと思っていますが、これは未定です。

部長になって来年で10年。この女性部の製品を完成させて、区切りよく後継者に、できればバトンタッチしたいと思っています。